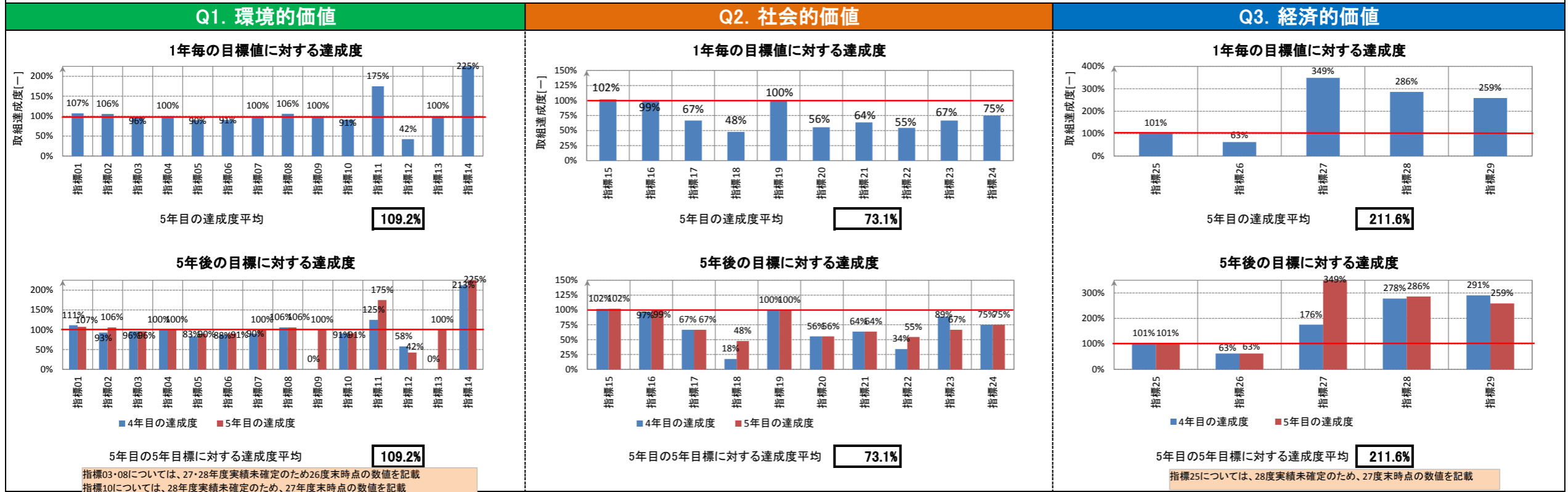


環境未来都市評価結果シート 5 年目（平成28年度）

富山県富山市	人口: 417,633人、174,463世帯(平成29年3月末現在)
	就業人口: 209,403人(平成27年10月1日現在)、市内GDP: 1.86兆円(平成25年度)
	面積: 1,241.77km ² (うち森林面積863.49km ²)

取組進捗評価結果(都市による自主評価に基づく達成度)



指標番号	指標名	平成28年度の特記事項(国際展開・都市間連携等)	5年間の取組総括
指標01	公共交通利用者数	「国際展開」 ・平成26年度から実施しているインドネシア国バリ島のタバナン県での「再生可能エネルギーを活用した農業活性化」プロジェクトにおいては、平成28年度にJICAの普及・実証事業の採択を受け、プロジェクトチームの民間事業者とともに現地調査や関係機構との交渉を進め、事業化目前まで至った。	「環境的価値」 ・北陸新幹線開業にあわせた路面電車南北接続(第1期)工事が完了。平成31年度末の富山ライトレールの高架下乗り入れの完成を目指し、順調に進捗した。 ・農業用水を活用した小水力発電所の整備を推進するため、小水力発電整備の実施団体に対する補助金制度を創設した。 ・セーフ&環境スマートモデル街区の事業コンセプトを定め、具体的な候補地及び事業者の選定を経て、事業化を図った。
指標02	便利な公共交通の徒歩圏に住む居住人口の割合	・平成28年5月にG7富山環境大臣会合が開催され、先進7か国及びEUの環境担当大臣や関係国際機関等の代表が参加し、意見交換を行った。本会合のバラレルセッションとして、「都市の役割」を議題とした会合を開催し、地球温暖化対策及び環境保全施策の実施について、先進事例を紹介するとともに、議論を行った。	「社会的価値」 ・産学官民の協働により開発した歩行補助車を、まちなかや公共施設等に整備した。 ・路面電車におけるユニバーサルデザイン対応の停留場を整備し、路面電車の利用や高齢者の外出機会を促進した。
指標03	運輸部門からのCO2排出量	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	「経済的価値」 ・農業の6次産業化の拠点施設となる「牛岳温泉植物工場」を建設し、エゴマの栽培を開始するとともに、耕作放棄地等の農地において露地栽培の拡大を図った。 ・産官学民80社で構成する「エゴマ6次産業化推進グループ」を設立し、商品開発、販路拡大等を行った。
指標04	路面電車南北接続(第1期)工事に係る進捗率	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	「国際展開」 ・JICA、JETRO、ICLEI、世界銀行などの国際機関や国内外の都市・地域とのネットワークを活用し、コンパクトなまちづくりや環境施策について、国内外に普及展開し、市内企業の新たなビジネスチャンスの創出を支援した。
指標05	路面電車南北接続(第2期)工事に係る進捗率	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標06	上滝線沿線のP&Rに利用されている無料駐車場の1日平均駐車台数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標07	イメージリーダ路線へのノンステップバス車両の導入支援数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標08	家庭部門からのCO2排出量	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標09	セーフ&環境スマートモデル街区の整備件数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標10	再生可能エネルギーの導入量	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標11	推進研究の累計実施件数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標12	食品廃棄物由来のバイオガス供給量	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標13	モデル地区で小水力発電機を設置した箇所数の累計	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標14	農家等との再生可能エネルギーについての勉強会等の実施回数の累計	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標15	健康な高齢者の割合	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標16	介護保険在宅サービスを利用する高齢者の割合	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標17	歩行補助ステーション数(箇所)	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標18	ケーブルテレビ富山が整備するwi-fiのアクセスポイント数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標19	ユニバーサルデザイン対応の停留場の累計整備件数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標20	私有地におけるコミュニティガーデンの整備数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標21	街区公園におけるコミュニティガーデンの整備数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標22	インデペンデンスボードウォーク整備延長	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標23	障がい者乗馬会の実施	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標24	子供を対象とした環境教育ツアー【冒険体験(体験学習)】の開催	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標25	製菓関連企業の出荷額	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標26	6次産業化法・総合化事業計画認定者数	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標27	6次産業化法に取り組み農産物(エゴマ)の露地栽培面積	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標28	林地集約化面積	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	
指標29	森林由来バイオマスの再生可能エネルギー利用量	・平成29年2月にJICAと連携覚書を締結し、環境未来都市を推進するとともに、開発途上地域への国際協力を効果的・効率的に実施し、開発途上地域の発展と世界の安定に貢献することに対し、相互の有益な連携関係を一層強化した。	

平成28年度の取組総括

各指標の達成度については、13項目において単年度目標を達成している。このほか、8項目が60%以上の達成度を有しており、実績値の把握が3年遅れるCO2排出量関連や現時点で未統計である指標を除けば、目標と乖離している項目は4項目となっている。「経済的価値」に関する指標は、高水準の達成度を有しており概ね順調に進捗しているが、「環境的価値」及び「社会的価値」に関する指標については、これまでの取組の成果が一部の指標に表れていないため、取組内容を見直すなどの対策を講じるべきであった。

他方、「セーフ&環境スマートモデル街区の整備」プロジェクトにおいては、優先交渉権者と事業に関する基本協定を締結し、住宅街区、公共施設ともに建設工事に着手まで至り、一足飛びに進捗が図られた。

さらに、平成26年度のタバナン県との協定締結を契機に始まった再生可能エネルギーを活用した農業活性化プロジェクトの国際展開については、JICA普及・実証事業の採択を受け、現地調査や関係機関との交渉を進め、事業化目前まで至った。

また、地方創生の取組みとして、大学と連携しエゴマの成分分析の深堀を行ったほか、イタリアの食科学大学とのブレンドオイル開発に向けた共同研究の継続実施をはじめ、多角的にエゴマのブランド化に取り組むなど、「環境未来都市」構想が目指す「成功事例の国際展開」に向けて、本市のプロジェクトが大きく花開いた一年であった。

委員からの5年間の取組全体に関する評価

○公共交通機関利用者数が着実に伸びており、公共交通を活かしたコンパクトシティ像が確立しつつある。

○交通や経済など、容易に成果を上げることのできない分野で優れた実績を残している。また、国際展開、都市間連携を積極的に進めている点も評価される。

○地域資源に限られる中、このスピードで取組が進んだのは、明確なビジョンを持った首長の強いリーダーシップによることや、縦割り行政を超えたタスクフォースを擁しているところ大きい。

○今後は、中心部(コンパクトシティ)と周辺部(農山村コミュニティビジネス)の相乗効果をより強く意識し、取組を進めていただきたい。また、行政主導ではない、企業や市民の主体的な参加を促す方策の検討も、今後の課題として進めてほしい。

コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築 ～ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して～

富山県
富山市

取組みの背景・地域特性

- 人口減少や少子高齢化社会に対応するため、将来世代に責任が持てる持続可能なまちづくり・都市経営の必要性
- 市街地の低密度化や過度な自動車依存がもたらす、公共交通の衰退や温室効果ガス排出量の増加といった課題
- 海拔0mから3千m級の立山連峰まで自然豊かな地域資源を活かした再生可能エネルギー利用や産業振興の推進

主な取組内容

環境

○LRTネットワークの形成

・本市が進めるコンパクトなまちづくりのリーディングプロジェクトとして、約25kmに及び、LRTネットワークの形成を図る取組。
・利便性向上を図り、市民にとって便利な交通手段とすることで、過度な自動車依存からの転換による環境負荷低減など様々な効果に繋がる。



○再エネを活用した農業の見える化

・営農施設に導入した太陽光や小水力、地中熱ヒートポンプなど再エネ設備の活用による農業への効果や有用性を農業者に体感してもらい、地域への再エネの一層の普及を図る取組。



社会

○地域主体のコミュニティガーデン

・街なかの街区公園や空き地のスペースを活用し、高齢者から子供まで地域住民主体で花や野菜を育てる「コミュニティガーデン」づくりを支援し、地域の絆“ソーシャルキャピタル”の醸成を図る取組。



○歩行支援による高齢者の外出促進

・産学官民の協働により開発した歩行補助車を、まちなかや公共施設等に整備することで、高齢者の外出機会の創出を図り、歩いて暮らせる健康長寿都市の実現を目指すもの。



経済

○エゴマの6次産業化

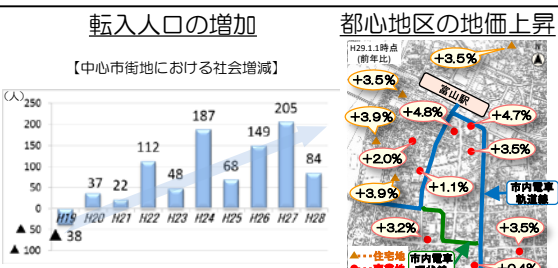
・過疎化や高齢化が進む中山間地に植物工場を整備し、地域の特産化を図るとともに、生産、加工、販売まで一体的に6次産業化として推進することで、雇用創出や地域振興を図る取組。
・民間事業者を中心に市内約80の企業等で構成する組織が立ち上がり、様々な新商品化や工場建設など経済活性化にも繋がっている。
・本市とイタリアの学術機関との共同研究で開発された新たなフレンドオイルをもとに、海外市場への輸出ビジネスの展開も進んでいる。



主な成果

自動車から公共交通への転換によりガソリン購入量が減少

区分	H17年(2005)	H28年(2016)	増減
富山市	756.706	689.791	△8.8%
北陸	728.206	700.406	△3.8%



ポイント

○LRTをはじめとした本市のコンパクトなまちづくりの成功ポイントは、人口減少や都市の低密度化など地域の「現状と課題」を十分に理解した上で、明確な「ビジョン」と、限られた財源による「選択と集中」の実行である。
○水資源など地域の自然環境を、エネルギーとして有効に活用し、産業への転換や地域振興を図っている。